

父の頭に、藁屑が、付いて居るのを、其子が見つけ、あわて、うア、父様の頭に、お布圍が取付て居るよ」と云ひました。

信州松代の手毬歌

石坂よし

▲一や二ーみいやよー。よめよめ吉田の千本柳に雀が三疋とーまつて、一羽の雀は嫁入なざる、二羽の雀はひこ入なざる、三羽の雀は、酒買に行くとして、鷹におはれて、あれやボン〜これやボン〜。ぢ、ば、一寸来て一寸かくせ、まづ〜一買貸し申した。

▲さん〜ざら〜〜くだ〜梅の花、こゝでお一つお手ばたき。

▲お輕は二階でのべ鏡椽の下では小野九太夫、主

人の退夜にたごさかな。おさかなとる猫どろぼう猫、やつと山猫さんしよ猫、やわとせやつとさのせ。

八月の天地

摩訶生



午後二時前後、寒暖計は常に九十三四度を昇降す、涼い哉……心の置き方によりては。氷を飲みて暑を凌ぐ國民は懦弱の國民に非ずば野蠻人の仲間なり。寧ろ鐵瓶の蒸氣のシエン〜たる傍、白湯一杯を傾けむものに與せん哉、心氣爽然として、